



Team石川



小中一貫CSだより第31号 平成30年11月20日発行 石川小・中学校 文責(松)

目指す子ども像(15歳の姿): 時と場に応じた挨拶・返事・言葉遣いができ、思いやりの心をもつ生徒

小学校外国語活動でチームティーチング



11月6日(火)、小学校3年生外国語活動の研究授業を、秋本先生(小学校3年生担任)と外崎先生(中学校英語教諭)がチームティーチングで行いました。めあては「アルファベットの大文字を当て、読んでみよう」で、児童が体でアルファベットの大文字を表現して、その文字を当てるという活動を行いました。子ども達は、生き生きと活動に取り組んでいました。今後の外国語活動に期待を膨らませていたようです。

中学校2年生の「ひろさき卍学」

10月31日(水)、中学校の山本教頭が、盛岡社会体験学習(11/1～2実施)の事前指導として、津軽と南部についての授業を行いました。学習課題は「津軽(弘前)と南部(盛岡)のつながりを知ろう」というもので、津軽と南部の歴史を中心に、石川についても取り上げ、「ひろさき卍学」の一環としての取組を社会科で実践しました。盛岡に出発する前日だったこともあり、生徒は興味深く学習に取り組んでいました。



教育フェスティバルで小・中学校の学校だよりなどを展示・学校紹介パネル展



「ひろさき教育の『いま』を知る」というテーマの下、ヒロロ3Fイベントスペース(11/9～10)、弘前市役所前川新館F市民ギャラリー(11/12～21)、イオンタウン弘前樋ノ口(11/21～25)において、弘前市内各小・中



学校の学校だより、PTA新聞、マスコットキャラクターなどが展示されています。お立ち寄りの際は、是非、ご覧になってください。(弘前市教育委員会教育政策課主催)



青森県中学校総合文化祭で大沢獅子踊披露

11月9日(金)～10日(土)、大会テーマ「響け！津軽に刻む絆のハーモニー」の下、第17回青森県中学校総合文化祭弘前市・南地方大会が、弘前市民会館及び弘前文化センターを会場に実施されました。

美術作品・書道などの展示発表、吹奏楽、演劇、合唱、郷土芸能などの舞台発表が弘前市の中学生を中心に行われ、石川中学校は文化祭2日目(10日)の郷土芸能で、大沢獅子舞保存会(会長；相馬寿氏)所属生徒4名(少年組)と保存会有志の皆さんが日頃の練習の成果を発揮し「大沢獅子踊」(県無形民俗文化財)を披露して、盛大な拍手を頂きました。

地域の方の指導で郷土芸能を継承し、地域に貢献している4人の本校生徒を大いに称賛したいと思います。当日は本校生徒全員が文化祭2日目の舞台発表を鑑賞しました。この文化祭への保存会の皆さんと少年組4名の出演、そして、全生徒が鑑賞したことは、地域の教育力を生かして子どもを育てるというコミュニティ・スクールとしての機能が「見える化」した事であると解釈しております。

なお、閉祭集会では、「ふるさと」を観客全員で合唱し「故郷」への想いを再確認しました。



「こども博物館」で「ひろさき卍学」



上記、文化祭鑑賞後、弘前市立博物館企画展「こども博物館」を見学しました。ワークシートを記入しながら見学し、弘前の歴史と文化を学ぶ「ひろさき卍学」として実施しました。

振り返りには、「社会の教科書にある異国感あふれる明治の風景は都会だけにあるものだと思っていたが、弘前にもあり、弘前も遅れていないのだと分かってうれしくなった」「この重い刀で切られると相当痛いだろうと思った」「弘前を守ってきた人はこんなに重



い武器を持っていたのか」「兜に“嵐”と書いていてびっくりした」「クイズを解きながら見学して楽しかった」などの感想があり、有意義な「ひろさき卍学」になりました。

